

# 集う

「昔から、巨岩や巨木には神が宿ると云われ、修行僧も地元の人もこの黒髪山山系を神々しい存在として捉え、訪れていたのです。」

黒髪山の自然を守る会顧問の馬場辰次(ばば たつじ)さんは、今も昔も人が絶えない黒髪山の魅力をそう語る。

確かに、黒髪山といえば、長年の風雪によって浸食された奇岩・巨岩群が目を引き、これらの岩々にそれぞれ名が付いてると聴くと、昔からこの山がいかにも多くの人を惹きつけてきたがわかるというものだ。

それら巨岩の中でも、ひと際大きい「対の岩、それが夫婦岩だ。「新三郎(雄岩)とお君(雌岩)の悲恋物語」にある、1年に二度、誰も見ていない時に、不思議にもその岩が寄り添うようにくっつく、という伝説は、武雄の方なら知らない方はいないだろう。

山道に点在する仏像、岩肌に山伏たちが削ったという7メートルある太鼓岩不動尊、修験者たちが住んだお寺の名残りである乳待坊、さらに、この黒髪山系にしかないという、クロカミランをはじめとした1000種を超える希少な植物、それらが何故この黒髪山に集結したのか、そんなことを考えながら秋を楽しむのも悪くないのではないだろうか。

# 選ぶ

そんな魅力と不思議に溢れる黒髪山の麓に新たに集う人たちがいる。

黒髪の美に魅せられ、最盛期には200件もの窯元が「つづえの里」として栄えてきたこの地で、新たに焼き物の文化の血が通い始めてきたのだ。

9月、黒髪山麓の採掘場跡を活用し、制作拠点・美術館をオープンした葉山有樹(はやまゆうき)さんはその一人、情熱が溢れ出る陶芸家だ。

「多様な芸術家たちを育む場所を作りたかった。」そのためには、魅力ある地と作品であることが、他にはない存在価値を生み、人を惹き付ける。だからここは、唯一無二の場所なんだ、と葉山さんは語ってくれた。

歴史に裏付けされた物語が存在し、思想や哲学などの精神が込められている葉山さんの作品は、どれも繊細だ。

そこに人を惹き付ける理由があるのだ。黒髪山がそうであるようにこの山麓にある、葉山さんを含む8つの窯元は、何れも類似した感性が無いことに気付く。独創的であり、不思議な神秘さを感じる。これから秋の窯開きで、その個性が溢れんばかりに披露される。

黒髪の歴史を想像しながら、陶芸家の作品と精神に触れる散策も面白い。



ドイツの名高い芸術家集団「マイセン陶磁」、フィンランドの芸術先進地域「フィスカス村」など、葉山さんは世界を知り、自らが理想とするこれからの芸術の在り方を実現しようとしている。